

2010 年(平成 22 年)の世界と日本の年平均気温について(確定)

○2010 年の世界の年平均気温の平年差は+0.34℃で、1891 年以降では、第 2 位の高い値でした。
○2010 年の日本の年平均気温の平年差は+0.86℃で、1898 年以降では、第 4 位の高い値でした。

世界の年平均気温

2010 年の世界の年平均気温の平年差*¹は+0.34℃で、1891 年以降では 1998 年に次いで、2 番目に高い値となりました。世界の年平均気温は、長期的には 100 年あたり 0.68℃の割合で上昇しており、特に 1990 年代半ば以降は高温となる年が多くなっています(図 1)。地域的にみると、インド洋や大西洋で全体に気温が高く、陸上においても、中央アジアなどを除く多くの地域で、平年より気温が高くなっています(図 2)。

なお、陸域のみの年平均気温の平年差は+0.62℃で、1891 年以降では、2007 年、1998 年に次いで、第 3 位の高い値となりました。

日本の年平均気温

2010 年の日本の年平均気温の平年差は+0.86℃で、1898 年以降では 4 番目の高い値となりました。日本の年平均気温は、長期的には 100 年あたり 1.15℃の割合で上昇しており、特に 1990 年代以降、高温となる年が頻出しています(図 3)。

平均気温の変動の要因

近年、世界と日本で高温となる年が頻出している要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響に、数年～数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動が重なったものと考えられます。2010 年の平均気温が高くなった要因としては、これらに加えて、2009 年夏から 2010 年春まで持続したエルニーニョ現象が影響しているためと考えられます。

世界及び日本の平均気温は気象庁ホームページにて随時更新・掲載しています。

<http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/temp/index.html>

*¹ 平均気温の平年差は平均気温から平年値を差し引いた値です。平年値としては、1971～2000 年の 30 年平均値を使用しています。

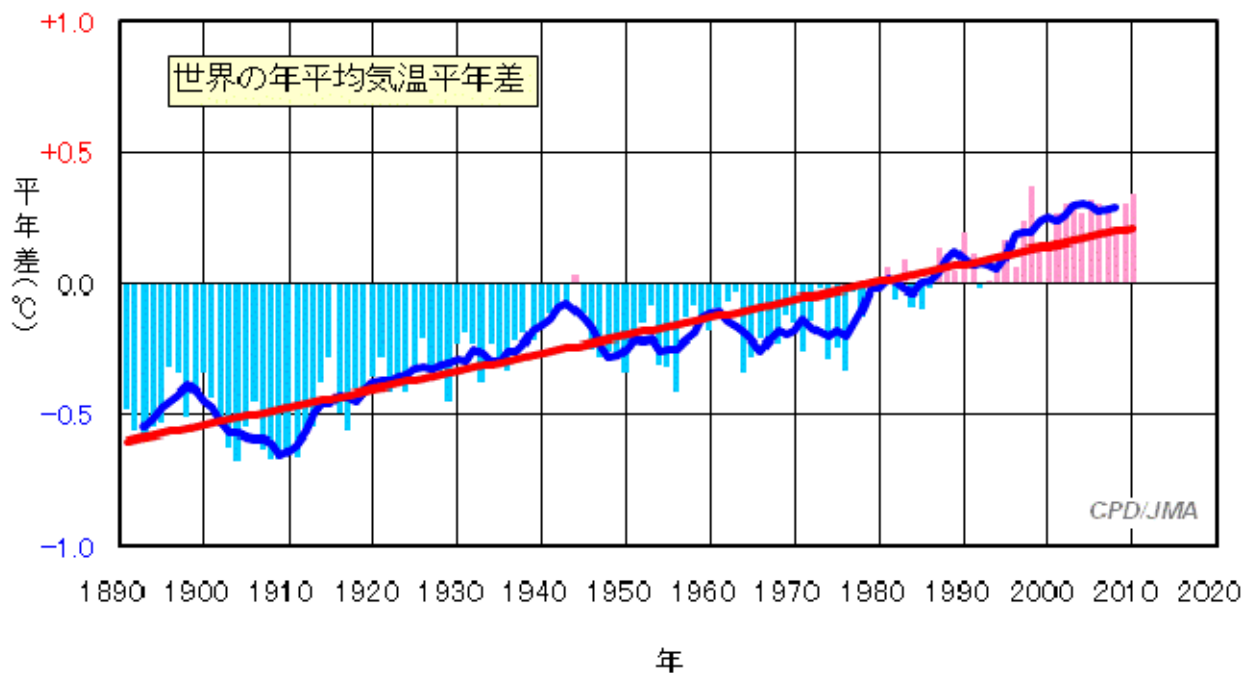


図1 世界の年平均気温の平年差の経年変化(1891~2010年)
棒グラフは各年の値、紺の曲線は各年の値の5年移動平均、赤の直線は長期変化傾向を示しています。

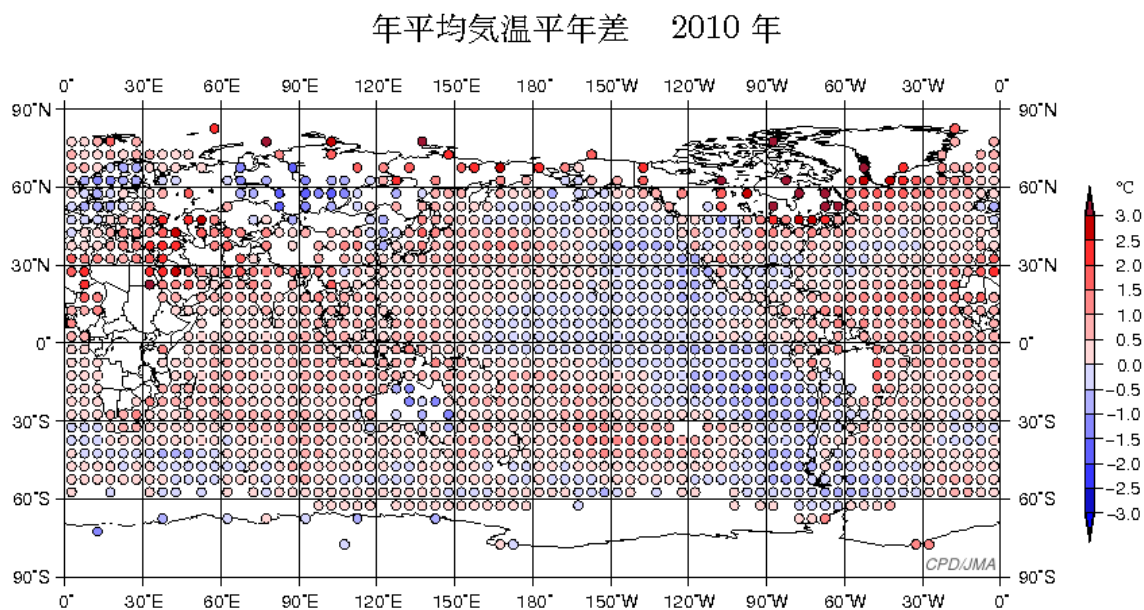


図2 2010年の年平均気温平年差の分布図
各観測点の平年差を緯度、経度5度の領域ごと平均した値で示しています。
なお、1891年以降の平均気温平年差の分布図は次のページでご覧いただけます。
http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/temp/map/temp_map.html

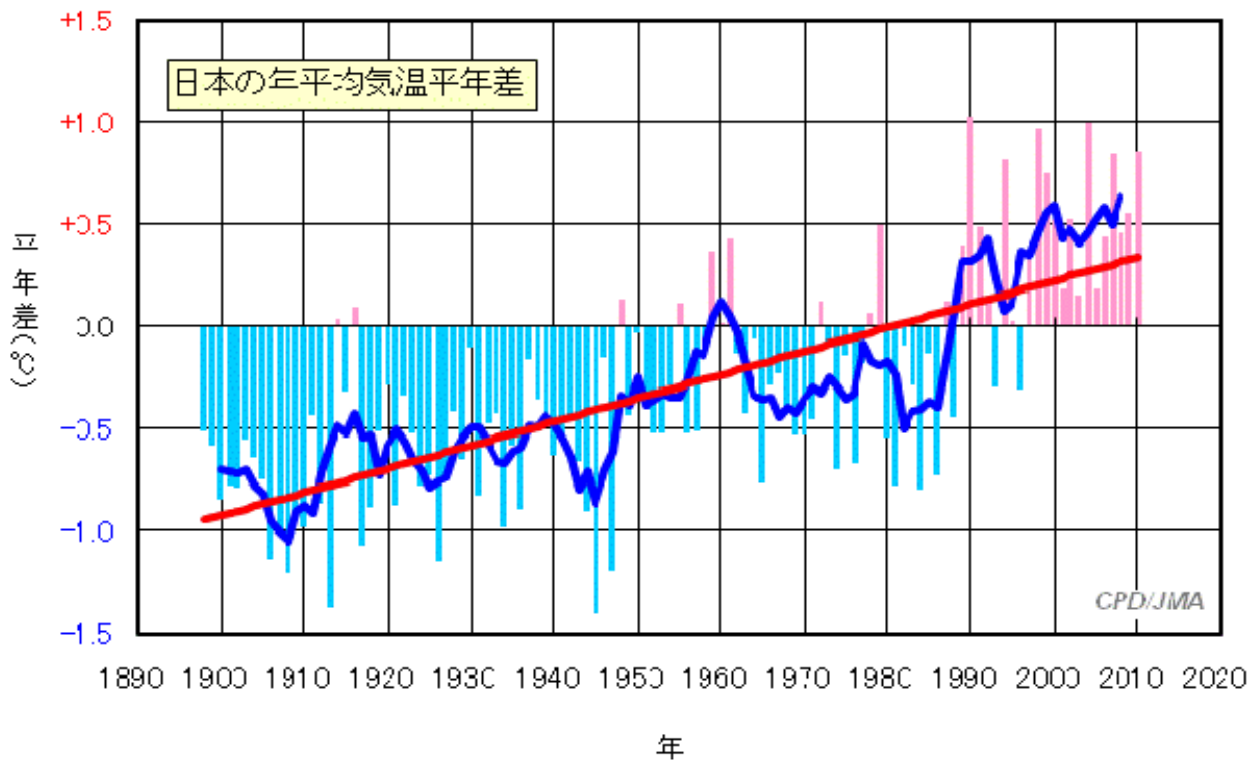


図3 日本の年平均気温の平年差の経年変化(1898~2010年)

棒グラフは各年の値、紺の曲線は各年の値の5年移動平均、赤の直線は長期変化傾向を示しています。

※日本の平均気温の平年差の算出にあたっては、長期間にわたる気温観測データが存在し、都市化による影響が小さい次の17地点の気象観測所を採用しています。

網走、根室、寿都(すつつ)、山形、石巻、伏木(高岡市)、長野、水戸、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬、石垣島

(別紙)

世界と日本の年平均気温の順位

世界			日本		
順位	年	平年差(°C)	順位	年	平年差(°C)
1	1998	0.37	1	1990	1.03
2	2010	0.34	2	2004	1.00
3	2005	0.32	3	1998	0.97
4	2009	0.31	4	2010	0.86
	2006	0.31	5	2007	0.85
	2003	0.31	6	1994	0.82
	2002	0.31	7	1999	0.75
8	2007	0.28	8	2009	0.56
9	2004	0.27	9	2002	0.53
	2001	0.27		2000	0.53
11	1997	0.24	11	1979	0.50
12	2008	0.20	12	1991	0.49
13	1990	0.19	13	2008	0.46
14	1995	0.16	14	2006	0.44
15	2000	0.15	15	1961	0.43